



和田小だより



発行日
令和7年3月14日
高浜町立和田小学校
—卒業記念号—

卒業おめでとうございます！

6年生のみなさん、卒業おめでとうございます。卒業に際して、一言、お祝いの言葉をおくります。

■夢や目標に向かって

今、みなさん一人一人の心の中には、中学校進学やその後の未来に向けて、おそらく「夢や目標」が宿っていることでしょう。でも、その実現は容易ではありません。自分なりに努力をしているつもりでも道は平らではなく、太陽が雲に隠れるように躓くことがあるかもしれない



1年 集合写真

からです。アイルランドには、「行く手に大きな壁が立ちはだかっていたら、その向こうに帽子を投げろ」ということわざがあります。壁の向こうにある帽子を手に入れるためには、その壁を乗り越える必要があります。つまり、たとえ上手くいかない時があったとしても、自分の「夢や目標」を思い出し、帽子を壁の向こう側に投げ込んでみることで、壁を乗り越え「夢や目標」を実現しようとする強い意志が生まれ、歩みを続けられるというのです。ある小学6年生は、卒業時の作文に「将来の夢」について、次のように記しました。「ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学・高校でも全国大会へ出て、活躍しなければなりません。活躍できる



2年 集合写真

ようになるには、練習が必要です。ぼくは、その練習には自信があります。ぼくは、3才の時から練習を始めています。3才から7才までは、半年ぐらいやっていましたが、3年生の時から今までは、365日中、360日は、はげしい練習をやっています。だから1週間で、友だちと遊べる時間は、5時間から6時間の間です。そんなに練習をやっているんだから、必ずプロ野球選手になれると思います。…（中略）…そして、ぼくが一流の選手になって試合に出られるようになったら、お世話になった人に招待券を配って、応援してもらうのも夢の一つです。とにかく一番大きな夢は、プロ野球選手になることです。」元メジャーリーガーであるイチロー選手が小学校時代に書いた作文です。この作文には、「夢の実現」について書かれていますが、そのために大切なことが3つ示されています。

一つ目は、「夢の実現のための方法を定める」ということです。イチロー選手の場合は、激しい練習であると言い切り、



3年 集合写真

迷いが感じられません。

二つ目は、「夢の実現のためには、苦労や努力は惜しまない」ということです。

そして、最後三つ目は「お世話になった人に対して、感謝の気持ちを持つ」ということです。夢を持ち、その夢を実現するために行動できるのは、私たち人間だけです。目の前に立ちほだかる困難な壁があったとしても、夢の実現に向けて、その方法を考え、苦労や努力を惜しむことなく、「感謝の心」を持って、中学校での日々を送ってほしいと願っています。



4年 夢ロード

■「学び」続けよう

一方で、みなさんにはどんな未来が待っているのでしょうか。人工知能(AI)が生活にどんどん入り込んで便利になる反面、仕事が奪われてしまう恐れもあります。でも、「私たちには変えられるものが2つある。それは、自分と未来だ」と黄熱病のワクチンを開発した野口英世博士は語っています。また、博士は、「学ぶこと」で、「自分と未来をよりよく変えることができる」とも述べています。学んで得た知識や力を人のために使うことで、よりよい社会、優しさで溢れる社会を創り出すことができます。そして、それができるのが、未来の担い手であるみなさん一人一人です。「きみは大人になっても、今きみの中にあるものを持ち続けることになるよ。勉強したり、経験を積んだりして、それを伸ばしてあげただけだ。今のきみは、大人のきみに続いている。」ノーベル文学賞を受賞した大江健三郎氏の言葉が示すように、どんな大

人になりたいかは、どんなことを学び続けたいかと同じです。中学校でも「学び」続けてください。



■「今」を大切に

この6年間は、まさに激動の6年間でした。社会が大きく変革し、予期しない出来事が日本や世界各地でも起こりました。そのような大きな変化の中でも、みなさんは、物事を前向きにとらえ、柔軟に対応する力を身につけてきました。みなさんが経験してきたこと、学んできたことは、これから先の長い人生にとって、無駄になることは一つもありません。

これからみなさんが生きていく未来がどうなっていくのか、だれにも分かりません。だからこそ、もっとももっといろいろな違いや個性をもつ人とつながり、どんな出来事にも対応する力を身につけていくことが大切です。「今日も人生の一日なり」。そんな社会で生きていくために、「今」というこの時を大切にすること、自分も人(他者)も大切にすることを忘れないでください。また、みなさんの未来、中学校生活は、どのようにも創っていくことができます。「今」この時を大切に、中学校でも充実した3年間で過ごしてください。22名の卒業生のみなさんに、心からエールを送ります。

